## 人口減少下に、行政サービスを継続的に維持 / 高度化し、国民の "可能性と繋がり" (≒日本的共同体)を継続強化する「人とAIソフトウエアの"共進化型"政府モデル」の提案

デジタルに 関する よくある誤解

- AI/デジタルとは、本来、人の職を奪ったり人と対立する ものではなく、本来人のための技術である
- AI/デジタルでできること = [①:自動化技術] + [②:知恵の保存&共有技術] + [③:繋がりの強化技術] + [④:人の個性の受容技術]
- 人口減少下でも、下記構成にすることで、これまでの行政サービスを維持/強化/進化させ続けることが可能となる

現状 & 近未来 人とAIソフトウエアの"共進化型"政府モデル: AIで 近くにいる人が減っていく 近くにいる人をエンパワー+遠くにいる人とも繋がる+個々の頑張りを皆の共有財産に ✓ 遠くにいる人 or 近くにいる人の2種 3. 地方自治体 2. 教育システム 1. 常駐専任規制(デジ臨) ✓ 人口減少=近くにいる人が減ると言う事 専門知識の ✓ 遠隔アドバイス ✓ 遠隔アドバイス 省庁職員 検査員 アドバイス 省庁職員 人とAIソフ クラウドAL トウエアの" ✓ 各省庁個別の仕事に忙殺 危険ケースが蓄積しAIで学 専門知識や 業務効率化支援を共通 共進化型" 習され安全基準が進化 成功事例は全国で共有 ソフトウェアから提供 政府モデル 別 全国の検査員の頑張りがAI 先生方の業務を楽にし生徒 市町村の成功事例が、 にむき合う時間を増やす ✓ 個々人が、都度頑張る を育て、日本がより安全に 地域を超えて共有可能に ✓ 日々、忙殺される GIGA 端末 ✓ 人が足りない... 市役所 検査員 ✓ 対面での の場で入力 モチベート /個別指導

人口減少社会 = 近くにいる人が激減していく社会 では、"近くの人"と "遠くの人" が連携する「共進化型モデル」 への移行が必須 → ①: 近くの人をエンパワー、②: 遠くの人からも支援&繋がる、③誰かの成功モデル/知恵をエリアを越え共有 <u>上記を通じて、皆の日々の</u>頑張りを、クラウドAIで「知恵の共有空間」とする、皆でクラウドAIを育てることを通じて "繋がり" を増やす

Confidential

## 直近克服すべき課題:: デジタル特性に合わせた業務改革/意識転換の必要性

- 人口減少下でも、国民の知恵の共有空間(クラウドAI)で、人と繋がりをエンパワーして行くために... 下記が喫緊の課題
- 既存のルール / 制度の連続的改善ではなく、非連続な変更が求められる箇所を記載

X: 業務改革: 各レイヤーの業務の再定義 (例: 市町村→県→国)

- 「各レイヤー(例: 市町村→県→国) がどの業務」をやるかを「利用者 起点」で再定義・設計する必要
- 行政でAI・クラウド活用する場 合に向けて、どこは共通化/標準化 するか、どこは創意工夫にゆだね るかの整理が必要.
- それをデジ行財で具体分野を やりながら明確にするべき

Y: "ユートピア的 完璧主義/減点主義" から脱却し、「現実解」を社会実装する必要 <AIモデル(&人間) は精度100% には原理的にならない問題への 早期対処>

1: Alソフトウェアの 事故責任論の 政府主導での整理

2: ロボタクシーなどの "近くに人が居ない技術"の 学習サイクルを回す

3: デジタルメディア上の データ 等に基づく言論解釈

- 一件でも事故がある と全てが止まる現状 を打開する必要
- AIソフトウエア(自動 運転等)の事故責任論 は「企業ではなく政 府主導」で制度やガ イドライン(含 保険) を出す必要
- 近くの人のエンパワー ソーシャルメデイア上 に留まらず、"近く"に人 が居なくても社会が回 るデジタル技術の社会 実装が中期に必須
  - ーロボタクシー
  - 一 介護ロボット etc
- 民間主導ではなく、特 区で実証→データ収集 → 改善する学習サイク ルの早期構築

- のデータ等に基づく言 論解釈が重要
- 超少数からの批判で取 り組みにブレーキがか かる現状を変える必要
- EBPMが進むと 解消する可能性

→ AIの世界では「失敗/エラー」を「学習」と呼ぶ. 人間もそうであるはず